



GLP GEFIL

東京大学グローバルリーダー育成プログラム

UTokyo

Global

Education

for

Innovation

&

Leadership

国際社会のリーダーをつくる
東大特別教育プログラム。

GLP-GEfIL 東京大学グローバルリーダー育成プログラムとは？

Global Leadership Program(GLP)は、国際社会における指導的人材を育成することを目的として2014年度からスタートした、学部学生を対象とした特別教育プログラムです。Global Education for Innovation & Leadership(GEfIL)は、GLPの後半2年間のプログラムで、国際関連に強い興味を持ち、将来革新的なリーダーを務めていきたいと考えている学生、高い英語能力と意欲を備えた学生を対象としています。

GLP-GEfILの4つの強み

- ① 東京大学の研究者たちの持つ世界的なネットワークを最大限活用できます。
- ② 海外トップクラスの大学の研究者・学生との共同研究や、国際的な企業家や専門家との交流があります。
- ③ 賛同企業の支援により、海外プログラムの授業料等への奨学金があります。
- ④ 東京大学公式のGLP-GEfIL修了証が交付されます。

どんな能力が身につきますか？

GLP-GEfILを通じ、コミュニケーションツールとして、またはアカデミック・スキルとしての実践的な英語力を磨きます。グローバルリーダー講義や学際的なワークショップに携わり、国際的な課題への問題意識及び理解を深めます。さらに実践研究を通じて、実用的なチームワークスキルやプロジェクト・マネジメント能力を身につけていきます。

どのような将来の進路が想定されますか？

GLP-GEfILの修了生は、自身の専門のみならず、グローバルコンピテンシーや柔軟なリーダーシップスキルを身につけているので、卒業後のキャリアは、国際機関やグローバルに展開する企業での活躍が期待されます。また、東京大学や海外の大学院等で、研究を一層深めることもできるでしょう。



【写真:GLP-GEfIL第2期履修生認定式】



グローバルリーダーとしての力を培う

グローバル化の波の中で、地球規模で生じる課題の解決が求められています。日本には、この困難な時代に立ち向かい、それを乗り越えていくポテンシャルがあり、東京大学はその先頭に立たなければならないと考えています。そのため、東京大学で学ぶ皆さんには、世界の様々な人々と協働し、課題解決に率先して取り組むリーダー、世界の様々な人々とその多様な価値観をつなぎ、専門分野を越えて活躍するリーダーとして育ててほしいのです。このような「グローバルリーダー」は、単に外国語が堪能であるというだけでは不十分です。確固とした専門の学術的能力を基礎として、コミュニケーション能力、他者と協働する力を備え、地球社会が直面している困難に革新的な解決を提案できる発想力を持たねばなりません。そのような力を持った若者たちを育成するため、東京大学は産業界のご理解と多大なるご支援を得てこのプログラムを立ち上げました。国際社会で重要な責任のある役割を担う志を持って、多くの学生がこの挑戦に参加することを期待します。

東京大学総長 五神 真

Structure of GLP-GEFIL 修了までの流れ

GLP-GEFILでは、学部前期課程(1・2年次)でのGLP指定科目の履修等を基礎としつつ、語学力や意欲によって選抜された学生(100人程度)を対象として、学部後期課程(3年次以降)を中心に、分野横断型の特別教育プログラムを提供します。

学部前期課程
(1・2年次)

GLP 指定科目の履修

グローバル
教養

実践力
・
課題解決能力

実践的
外国語能力

上記の3区分から2区分以上にわたり、6単位以上取得

※GLP指定科目は、前期課程で提供される授業科目の一部を充てたものであり、GEFILの履修希望の有無に関わらず、履修することができます。

GEFILの履修申請

2年次 (PEAK生は1年次) の8月頃

ハイレベルの英語による
コミュニケーション能力
IELTS7.0以上または
TOEFL iBT 100以上を目安

約100人
を選抜

強いモチベーション
国際社会における将来の
リーダーとしてのビジョンと推進力

学部後期課程
(3・4年次)

GLP-GEFIL 学部2年次冬～4年次秋

主体的に取り組む実践研究や海外プログラムへの参加などを通じて、英語によるコミュニケーション能力、専門分野を越えて協働する力、地球規模の課題に革新的な解決を提案できる発想力を身に付けます。授業はすべて英語で行われます。

————— プログラムを構成する4つの柱 —————

① GEFIL実践研究【4単位】

学生自身が関心を持つ地球規模の問題を対象に、創造的・学術的な研究プロジェクトを設計・実施していくことを目標とします。

② GEFIL海外プログラム【4単位相当】

3年次および4年次に、世界トップレベルの大学の厳選されたプログラムやインターンシップ、海外でのボランティア活動に参加します。

③ グローバルリーダー講義【2単位】

世界の第一線で活躍しているビジネスリーダー、起業家、国際的専門家を迎えて行う講義です。アクティブ・ラーニングの方式を最大限に生かしながら、学生が講義の司会や討論での役割を果たし、講演者との対話をリードします。

④ GEFIL共通授業科目【2単位相当】

高度なグローバル教育や、実践的な外国語能力の育成、アカデミック・スキルの獲得等を目指して、実践研究のテーマを深める授業科目群です。

*「GEFIL 実践研究」と「グローバルリーダー講義」での取得単位を卒業単位の一部として認定するかは各部局の判断によります。

GLP-GEFILの特徴

GEFIL 実践研究

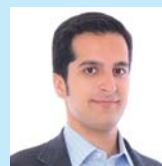
PHASE 1 を担当するグローバルリーダー育成プログラム (GLP) 推進室の教員



プログラム・ディレクター
GLP 推進室特任教授
リスキティン ニコロ



GLP 推進室特任教授
シルバーバーグ ヤロン



GLP 推進室特任講師
カラジ アリ

PHASE 1 (2 年次12月～3 年次5月)

実践研究PHASE 1 では、学生たちが現実の世界で起こっている問題を題材に、研究を進めていくプロセスを学びます。集中的に開催されるワークショップを通じて、学生たちは研究計画の立て方、執行の仕方、そして学際的なアプローチで研究を進めていく方法などを身につけていきます。さらに、その結果を内外の専門家たちにどのように伝えていくかも重要な課題としています。これらの全てのプロセスを英語で学んでいきます。

通常の授業においては、国際的なゲストスピーカーや、GLP推進室の

教員たちが、グローバルな課題に対しての考察、研究方法への援助や実務的なスキルを示唆します。

PHASE 1 で扱われる研究課題は、GEFIL履修生の興味を考慮して選択されますが、同時に現在地球規模で起こっている複雑な課題でもあります。グローバルな複雑な課題を解決していくには、多様な領域での専門的な力が必要とされます。実践研究PHASE 1 では、いろいろな学部から違った専門を持つ学生たちが、チームでの研究に取り組んで、自分たちの力を出し合って研究を完成させていきます。



【写真：GEFIL実践研究PHASE 1の様子】

PHASE 2 (3 年次9月～4 年次5月)

学生が興味・関心を持つグローバルな課題の中からテーマを選び、5つのクラスに分かれて本格的な実践研究を行います。主幹メンター教員によるゼミや、協力教員・TAの助言・指導等を通じて、研究を進化

させていきます。海外プログラムやGEFIL共通授業科目の経験や知見を自身の研究活動にもフィードバックして、最終的な研究成果を取りまとめ、発表します。

GEFIL 履修生の声

ピース・ビルディング



中村 優理子
法学部 3 年生

ピース・ビルディングでは、東ティモールにおける移行期の正義からグルジアの平和維持活動まで、それぞれの学生が選んだテーマについて研究を行います。厳しい授業ですが、貴重な経験である理由が主に2点あります。

1点目は、2週間に1回、教授、TA2名、そして同級生から研究計画書に対してフィードバックを頂くことです。互いのアイデアや進捗を共有することで、世界が抱える多様な紛争だけでなく、研究で直面した課題を解決する方法も学びます。

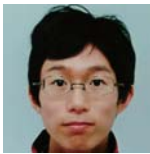
2点目は、研究の核心を定義し、明確にすることを鍛えられることです。例えば、私は当初ボツワナの経済発展に関心を持っていました。ボツワナは、伝統的な国際政治・開発理論から逸脱しています。私は研究提案と議論を5回繰り返して初めて、輸出され

る資源の価値ではなく、ボツワナ政府の中央集権的な政策形成に鍵があることを発見しました。

これは決して簡単な作業ではありませんでしたが、先生方が常に的確なご助言を下されたおかげで達成できました。この授業で習得したスキルはいかなる分析にも不可欠であり、努力の価値があると考えます。



グローバル・ヘルス



松尾 悠自
理学部 3 年生

現在は、二つの班、Mental Global Health と Mobile Global Health に分かれて、5月の発表に向けて頑張っています。Mental Global Health では、育児に関する社会制度（例えば育児休暇制度）と産後鬱との関係を調べていて、Mobile Global Health では糖尿病とスマートフォンの糖尿病アプリ、との関係を調べています。ヘルスというと、個人的な面も強いし、国や地域によっても全く様子が変わってくるし、その違いが生じる原因も様々です。そのため、グローバル・ヘルスというのは若干矛盾している気もしますが、これはとても大切な視点です。実は健康、というのは単に身体的な面だけではなく、精神的社会的な面も含んだ、最も大切な人権の一つをなすものなので、地球規模で考えることによって見えてくるものがたくさんあります。ほかにもグローバル・ヘル

スでは IT 技術などの最近の話題と健康を組み合わせたことなどを扱います。活動は3週間に一回で、好きなテーマを選ぶことができますので、自分のペースで活動を進めることができます。先生や TA の方々のサポートもあるので、興味を持った人は安心してグローバル・ヘルスにきてください。



グローバル・エコノミー&マネジメント



本田 志温
工学部 3 年生

グローバル・エコノミー&マネジメントは、ひとつのグローバル企業について、アニュアルレポートなどの資料を使ってチームで企業分析に取り組みます。カリキュラムの前半では、財務諸表の読み方など経営分析の基礎を学びます。各指標の定義から経営戦略の設計までを、コンサルティング会社の講師による3日間の集中講座で教わりました。カリキュラムの後半では、2チームに分かれてグローバル企業の経営戦略を考えます。私のチームはトヨタを、もう一つのチームはGEを担当しています。私のチームメンバーの専攻は経済学、環境科学、工学だったので、それぞれトヨタの経営、環境活動、研究開発に注目して分析を行っています。巨大なグローバル企業の経営戦略を考えるためには、企業が発表している資料を読むだけではなく、他の企業の動向や世界情勢に

ついても知る必要があります。現在起きている変化によっては他の産業の動きも考慮に入れることもあるでしょう。このように、グローバル・エコノミー&マネジメントでは、経済だけでなく多面的な知識を組み合わせることで将来を予測するというチャレンジングな課題に取り組みます。ここで学ぶことは、激動の時代を生きていく中できっと役に立つと思います。



ダイバーシティ



大宮 萌恵
教養学部 3 年生

GEFIL プログラムはグローバルなリーダーを目指すものですが、芸術論などに主に関係がある私の専攻は所謂「リーダー」に繋がるとも言い難く、私の興味分野を生かしつつ、GEFIL に適した研究をするにはどうすべきか昨年は随分考えていました。その時期のガイダンスの際に園田先生が「グローバルなリーダーになる前に、まずは自分自身のリーダーになることを目指しなさい。」と仰っていたことが今でも鮮明に記憶に残っています。これがダイバーシティを選択する決定打となりました。私たちのグループは、「ダイバーシティ」なだけに、メンバーの関心も非常に多様なため、まず全員で「Barriers」というテーマを設定しました。この下で、それぞれが研究を進めます。また、個人プレーのみではグループワークに繋がりにくいため、最

近は新しいプロジェクトも始まりました。東大生全体に開かれたハワイでのウィンタースクールを計画する、というものです。月2回程度の顔合わせの際には、全員でお互いの進捗を共有し、非常に知的で刺激的な学びを得ることができます。今後の活動もとても楽しみです。



サステナビリティ



小林 里緒奈
農学部 3 年生

サステナビリティでは、私たちを取り巻く社会の「持続性」について、フィールドワークや文献研究を中心に毎週ワークショップをしています。今年はハワイとバリ島にフィールドを絞り、それぞれエネルギーと食料自給率の向上や、農村の観光化と持続性に関する問題を扱っています。春には現地調査を行いました。昨今話題の COP をはじめとして「持続性」と聞くと環境問題を連想しがちですが、環境に限らず私たちは経済状況や文化が持続的でなければ、将来にわたって生きていくことはできません。そして多くの場合、これらの持続性はお互いに対立関係にあります。私たちは工学部、農学部、教養学部と皆理系出身ですが、社会

的な視点をもってプロジェクトを進めることも不可欠であり、GEFIL の特徴である「学際性」が最も必要とされる分野だと実感しています。常に新しい視点と発想を与えてくださる富士先生のもとで、世界が直面する「持続性」について考えてみませんか。



GEfIL 海外プログラム

世界のトップレベルの大学のサマープログラム等を、多数厳選しています。海外派遣にあたっては、同一のプログラムに参加できるGEfIL生の人数に制限を設けています。これは、東大の学生で固まることなく、世界各国のメンバーとコミュニケーションをする経験を持つことが、この海外プログラムの目的の一つだからです。また、この海外プログラムでは、一定のGEfILプログラムの条件を満たすことで、学生が企画したフィールドトリップ、海外でのインターンシップやボランティア活動を行うこともできます。海外派遣にあたっては、協賛企業の寄付による奨学金(地域・期間等に応じて最高100万円まで)を支給します。

— 海外プログラムの事例(2017年度派遣例) —

中国	LSE-PKU Summer School in Beijing
ミャンマー	Peace Boat Special Global University
アメリカ	Stanford Summer International Honors Program (SSIHP) Harvard Summer School Yale Summer School
カナダ	University of British Columbia, Vancouver Summer School
イギリス	Pembroke-King's Summer Programme LSE Summer School Oxford Global Challenges of the 21st Century School of Oriental and African Studies (SOAS), University of London
スイス	Geneva Graduate Institute Summer Programme Geneva University Summer School
ドイツ	Humboldt University, Summer School LMU Munich & Vienna, Munich International Summer Program on Middle East Studies RWTH Aachen University, Robotics Bauhaus University, Design Thinking
デンマーク	University of Copenhagen, School of Global Health Challenges
フランス	HEC Paris Summer School Sciences Po Summer School
イタリア	Venice International University
オランダ	Leiden University, Grotius Center Summer School
フィンランド	Helsinki University, Summer School
南アフリカ	LSE-University of Cape Town



グローバルリーダー育成プログラムは、趣旨にご賛同いただいた下記の企業様のご支援・ご協力によって支えられています。

IHI

AsahiKASEI

astellas
Leading Light for Life

Eisai エーザイ株式会社

ABB

Otsuka

JFE

シオノギ製薬

あなたの未来を強くする
住友生命

—信用と創造—
住友不動産

住友商事

Takeda

JR
JR東海

東京海上日動

TORAY

JR
JR東日本

FE 富士電機
Innovating Energy Technology

SMBC SUMITOMO MITSUI
BANKING CORPORATION

三井不動産

三菱ケミカルホールディングス
THE KAITEKI COMPANY

三菱重工業株式会社

三菱電機株式会社

LIXIL

(2017年3月現在 社名五十音順)

GLP-GEfILに関する詳細情報は

<http://www.glp.u-tokyo.ac.jp>

GLP指定科目の履修手続きについて：教養学部教務課前期課程係にお問い合わせください。

GLP-GEfILの内容等について：東京大学グローバルリーダー育成プログラム推進室にお問い合わせください。

e-mail: glp-gefild.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp

〒113-8654 東京都文京区本郷7-3-1 東京大学グローバルリーダー育成プログラム推進室

